

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2023年第1週
(1月2日～1月8日)

- * 2023年1月11日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<https://survey.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「日本から風疹をなくすために―“風疹ゼロ”プロジェクト―」、「マスク着用がやはり最重要」も掲載しています。
- * 今週は病原体検査情報の掲載をお休みします。

令和5年(2023年)1月12日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：tmiph@section.metro.tokyo.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2023年1週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		50週	51週	52週	1週	年累計	1週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	37	35	28	1	1	89	89
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9)							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢						1	1
	腸管出血性大腸菌感染症	4	5	2	4	4	8	8
	腸チフス						1	1
	パラチフス		1					
四類	E型肝炎	5	4		3	3	5	5
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1					
	エキノコックス症							
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサナル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*3}						1	1
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
つつが虫病	2	2		2	2	15	15	
デング熱			1			2	2	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		50週	51週	52週	1週	年累計	1週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア				1	1	1	1
	野兎病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
レジオネラ症		2	4			24	24	
レプトスピラ症			1					
ロッキー山紅斑熱								

2023/1/11集計

(全数把握対象疾患のコメント:一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 1件 患者(肺結核)、年齢は80代、推定感染地は国内であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 4件 患者 3件、無症状病原体保有者 1件、血清型・毒素型はO26 VT1 1件、O26 VT2 1件、血清型不明VT1・VT2 1件、血清型不明VT型不明 1件、年齢は20代 2件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 3件、フィリピン 1件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 3件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 3件 患者 2件、無症状病原体保有者 1件、年齢は30代 1件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は経口感染 2件、不明 1件であった。

つつが虫病 2件 年齢は40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件であった。

マラリア 1件 病型は三日熱、年齢は20代、推定感染地はカンボジア又はシンガポールであった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2023年1週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		50週	51週	52週	1週	年累計	1週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	1	3	4			3	3
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1		1			1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	3	5	4	4	10	10
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) *1							
	急性脳炎 *2				2	2	4	4
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病						1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	1	2	3	3	10	10
	後天性免疫不全症候群	4	6	7	1	1	5	5
	ジアルジア症							
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2				3	3
	侵襲性髄膜炎菌感染症							
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	2	4	1	1	21	21
	水痘(入院例に限る)							
	先天性風しん症候群							
	梅毒	62	69	75	20	20	66	66
	播種性クリプトコックス症			1			1	1
	破傷風							
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			2			1	1
百日咳		2				3	3	
風しん		1						
麻しん								
薬剤耐性アシネトバクター感染症						1	1	

2023/1/11集計

*1 2018年5月1日より追加指定された。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント:五類）

〈五類感染症〉

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4件 病原菌は*Pluralibacter(Enterobacter) gergoviae* 1件、*Kluyvera intermedia* 1件、*Klebsiella pneumoniae* 1件、*Serratia marcescens* 1件、年齢は5歳未満 1件、80代 3件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、以前からの保菌又は医療器具関連感染 1件、その他 1件、90日以内の海外渡航歴無し 4件であった。

急性脳炎 2件 病原体は単純ヘルペスウイルス 1件、その他 1件、年齢は5歳未満 2件、推定感染地は国内 1件、不明 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、接触感染 1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3件 血清群はA群 1件、B群 1件、不明 1件、年齢は40代 1件、80代 2件、推定感染地は国内 2件、不明 1件、推定感染経路はその他・不明 3件であった。

後天性免疫不全症候群 1件 無症候キャリア、性別は男性、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は同性間性的接触であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 1件 血清型は検査未実施、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、肺炎球菌ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 20件 患者 14件(早期顕症梅毒 I 期 10件、早期顕症梅毒 II 期 4件)、無症候梅毒 6件、性別は男性 13件、女性 7件、年齢は20代 10件、30代 6件、40代 1件、50代 3件、推定感染地は国内 18件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 19件(同性間 4件、異性間 13件、性別不明 2件)、不明 1件であった。

※ 2022年第52週該当分として〔五類〕アメーバ赤痢 1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、梅毒 8件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2023年1週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2022年			2023年	報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		50週	51週	52週	1週		
小児科	RSウイルス感染症	59 0.23	31 0.12	9 0.04	12 0.05	256	264
	咽頭結膜熱	47 0.18	51 0.20	25 0.10	17 0.07		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53 0.20	52 0.20	40 0.16	28 0.11		
	感染性胃腸炎	2,496 9.56	2,777 10.64	1,738 7.04	1,211 4.73		
	水痘	35 0.13	22 0.08	24 0.10	24 0.09		
	手足口病	46 0.18	38 0.15	20 0.08	13 0.05		
	伝染性紅斑	8 0.03	3 0.01	1 0.00			
	突発性発しん	74 0.28	53 0.20	32 0.13	39 0.15		
	ヘルパンギーナ	7 0.03	8 0.03	10 0.04	3 0.01		
	流行性耳下腺炎	9 0.03	11 0.04	5 0.02	4 0.02		
	川崎病 ^{*1}	1 0.00	3 0.01	2 0.01	2 0.01		
	不明発しん症 ^{*1}	5 0.02	7 0.03	3 0.01	4 0.02		
	インフルエンザ	インフルエンザ ^{*2}	462 1.12	940 2.28	1,139 2.94		
眼科	急性出血性結膜炎	2 0.05				38	39
	流行性角結膜炎	8 0.21	6 0.16	4 0.11	2 0.05		
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}					24	25
	無菌性髄膜炎			1 0.04	1 0.04		
	マイコプラズマ肺炎			1 0.04			
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1 0.04					
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) ^{*4}						
	インフルエンザ入院	5 0.20	9 0.36	7 0.28	13 0.54		
2023/1/11集計							

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数が3.61と増加しています。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2023年1週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
～5か月				16				2			
6～11か月	4		1	74	3	4		6			
1歳	5	7		238	2	2		22	1		
2歳		5		163		3		6			1
3歳	2	1	4	147	2			1			1
4歳	1	2		102	3	1		1	1		
5歳		1	5	71	3	1				1	
6歳			1	69	2	1					
7歳			2	54				1		1	
8歳		1	3	27	1						
9歳			2	35	3					1	
10～14歳			3	74	5				1	1	
15～19歳			1	15							
20～29歳			6	126		1					
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	12	17	28	1,211	24	13		39	3	4	2
先週比	3	-8	-12	-527		-7	-1	7	-7	-1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出 血性結 膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月										
6～11か月		14								
1歳	3	45								
2歳		53								2
3歳		46								
4歳		55								
5歳	1	75								
6歳		63								2
7歳		52								1
8歳		53								
9歳		47								
10～14歳		189								
15～19歳		123								
20～29歳		291		1						
30～39歳		141								
40～49歳		105								1
50～59歳		67								
60～69歳		22				1				1
70～79歳		12		1						4
80歳以上		5								2
合計	4	1,458		2		1				13
先週比	1	319		-2		-1				6

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2023年1週

	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病
千代田				1.67				0.33			
中央区				4.00							
みなと				4.17	0.33						
新宿区	0.14	0.14	0.14	3.43	1.00	0.14		0.14			
文京	0.25			6.75		0.25					
台東	0.25			9.25				0.50		0.25	
墨田区				4.60				0.20			
江東区				4.67	0.11					0.11	
品川区				3.25							
目黒区				5.20				0.40			
大田区		0.25	0.25	3.92				0.17			0.08
世田谷	0.06	0.06	0.31	5.56							
渋谷区				4.50				0.25			
中野区		0.17	0.17	10.00	0.17	0.50		0.17			
杉並				2.09				0.09			
池袋		0.20	1.20	0.80		0.20					
北区			0.14	5.29				0.43			
荒川区				6.00	0.25	0.25					
板橋区				4.20					0.10		
練馬区	0.15		0.23	4.00		0.08		0.15			0.08
足立				4.69	0.08						
葛飾区				1.63	0.25						
江戸川	0.08	0.25	0.33	5.83	0.08			0.08			
八王子市	0.09	0.09		10.73	0.36			0.36		0.09	
町田市			0.13	4.00				0.25			
西多摩				1.88		0.13		0.13			
南多摩	0.11			2.67				0.11			
多摩立川	0.07			2.64	0.07	0.07		0.14			
多摩府中				5.69	0.13			0.13		0.06	
多摩小平	0.14	0.43	0.21	7.64	0.07	0.21		0.64	0.14		
島しょ											
東京都	0.05	0.07	0.11	4.73	0.09	0.05		0.15	0.01	0.02	0.01

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		4.25				0.50				
中央区		1.40								
みなと		2.33								
新宿区		2.36								2.50
文京		2.29								
台東		2.67								
墨田区		6.88								
江東区		2.50								
品川区		2.17								
目黒区		3.88								
大田区		2.50								
世田谷	0.13	3.76		0.50						1.50
渋谷区		1.43								1.00
中野区		7.50								
杉並		2.71								
池袋		5.25								
北区		3.27								
荒川区		3.17								
板橋区		2.75								
練馬区	0.08	2.45								
足立		3.74								
葛飾区		2.92								
江戸川		4.58								
八王子市		6.33								
町田市		4.08								
西多摩	0.13	3.43								
南多摩		4.93								
多摩立川		3.71								
多摩府中		3.26								0.67
多摩小平		4.75		0.50						1.00
島しょ		1.00								
東京都	0.02	3.61		0.05		0.04				0.54

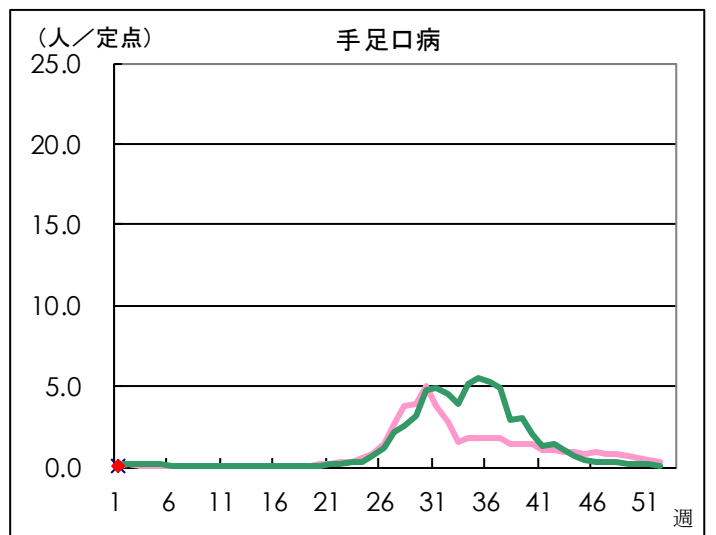
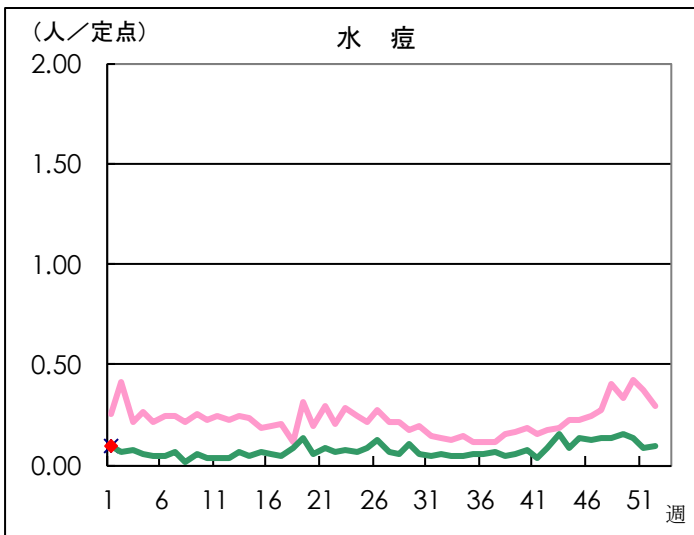
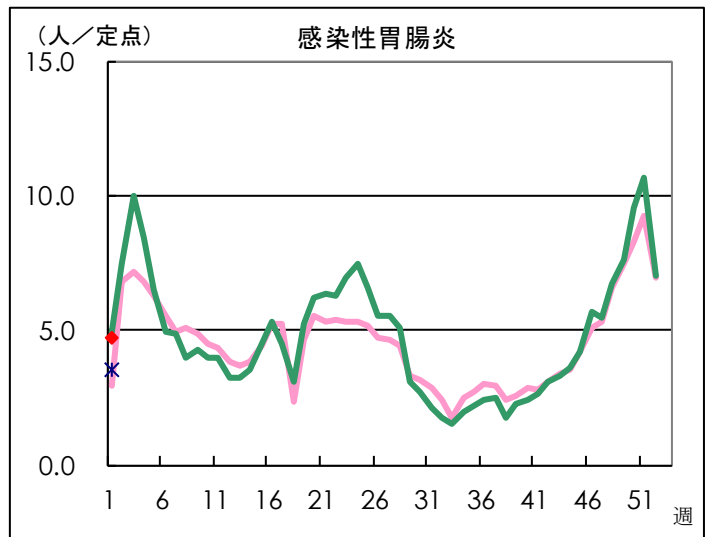
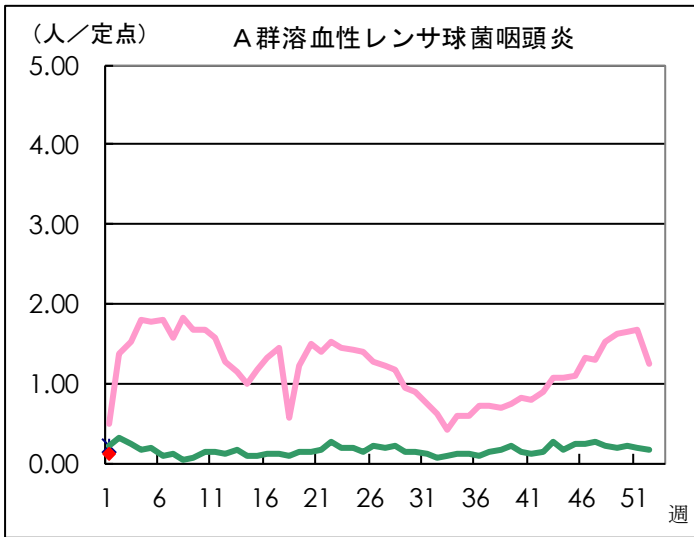
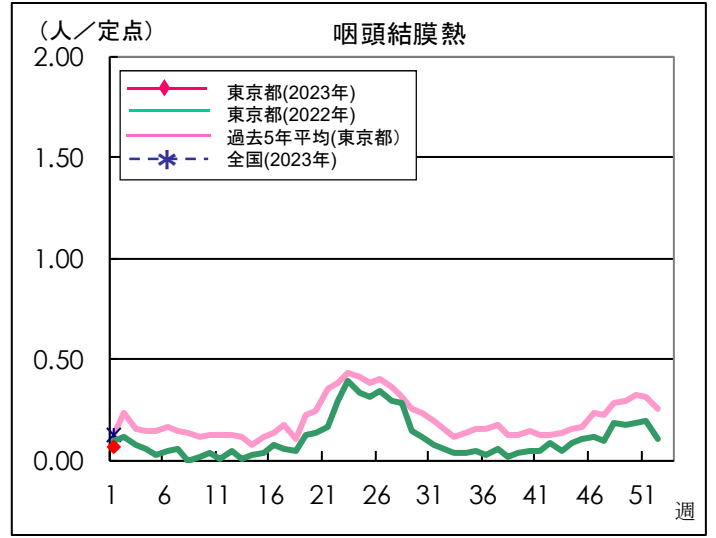
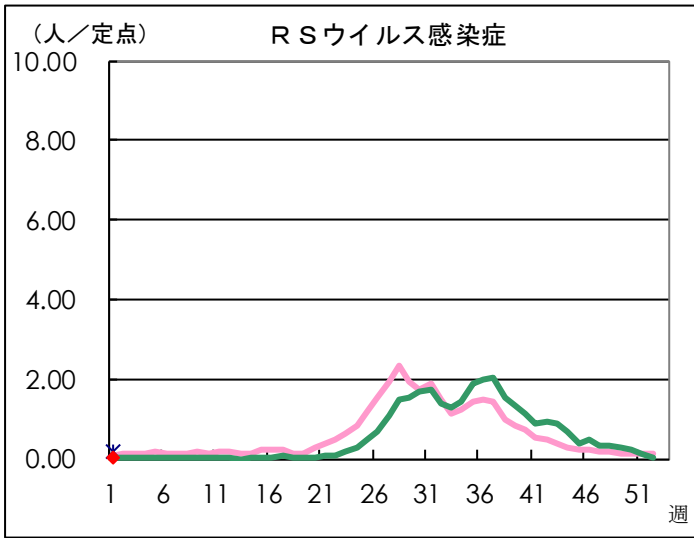
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2023年1週

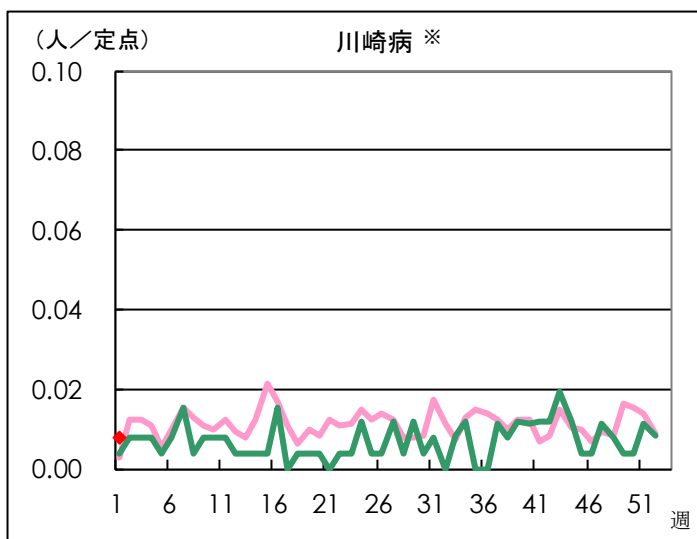
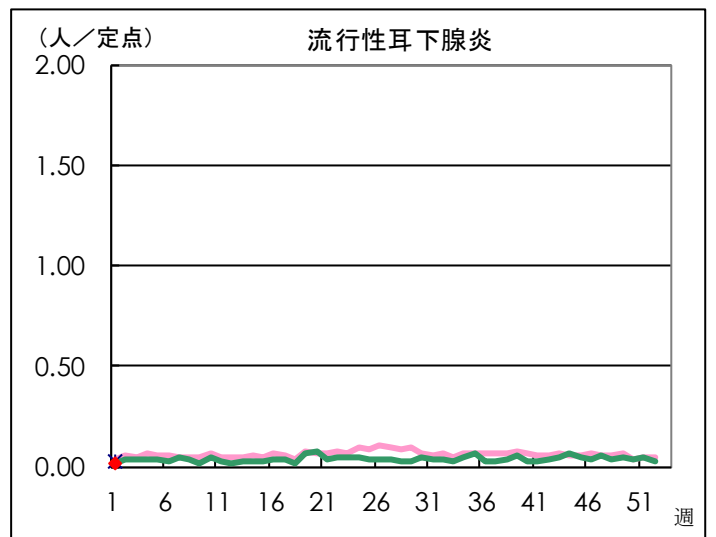
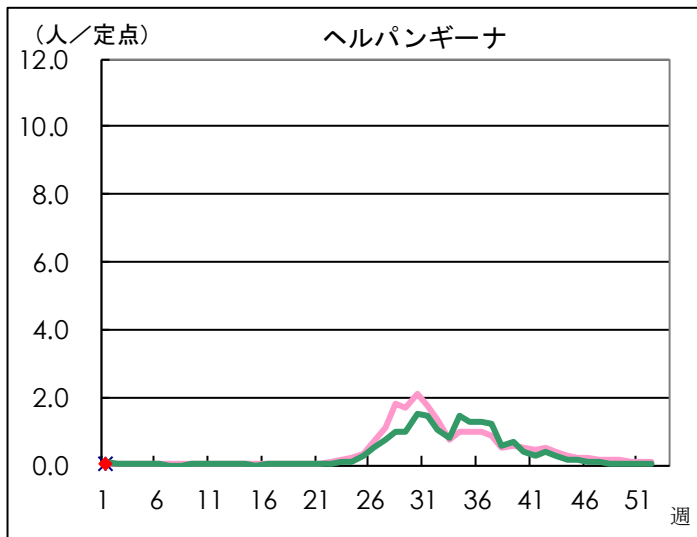
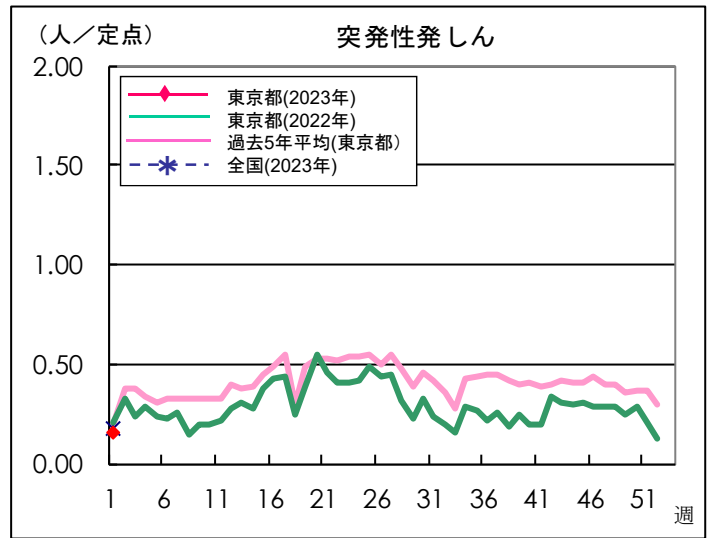
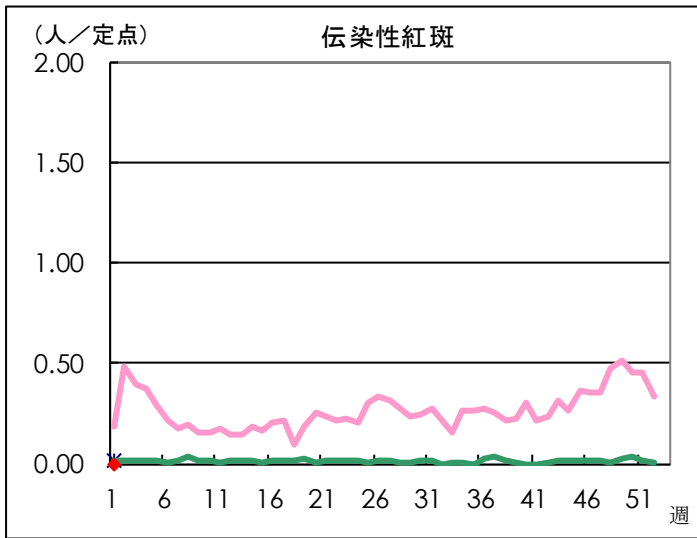
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田				5				1			
中央区				12							
みなと				25	2						
新宿区	1	1	1	24	7	1		1			
文京	1			27		1					
台東	1			37				2		1	
墨田区				23				1			
江東区				42	1					1	
品川区				26							
目黒区				26				2			
大田区		3	3	47				2			1
世田谷	1	1	5	89							
渋谷区				18				1			
中野区		1	1	60	1	3		1			
杉並				23				1			
池袋		1	6	4		1					
北区			1	37				3			
荒川区				24	1	1					
板橋区				42					1		
練馬区	2		3	52		1		2			1
足立				61	1						
葛飾区				13	2						
江戸川	1	3	4	70	1			1			
八王子市	1	1		118	4			4		1	
町田市			1	32				2			
西多摩				15		1		1			
南多摩	1			24				1			
多摩立川	1			37	1	1		2			
多摩府中				91	2			2		1	
多摩小平	2	6	3	107	1	3		9	2		
島しょ											
東京都合計	12	17	28	1,211	24	13		39	3	4	2

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		17				1				
中央区		7								
みなと		21								
新宿区		26								5
文京		16								
台東		16								
墨田区		55								
江東区		35								
品川区		26								
目黒区		31								
大田区		50								
世田谷	2	94		1						3
渋谷区		10								1
中野区		75								
杉並		46								
池袋		42								
北区		36								
荒川区		19								
板橋区		44								
練馬区	1	49								
足立		71								
葛飾区		38								
江戸川		87								
八王子市		114								
町田市		53								
西多摩	1	48								
南多摩		69								
多摩立川		78								
多摩府中		88								2
多摩小平		95		1						2
島しょ		2								
東京都合計	4	1,458		2		1				13

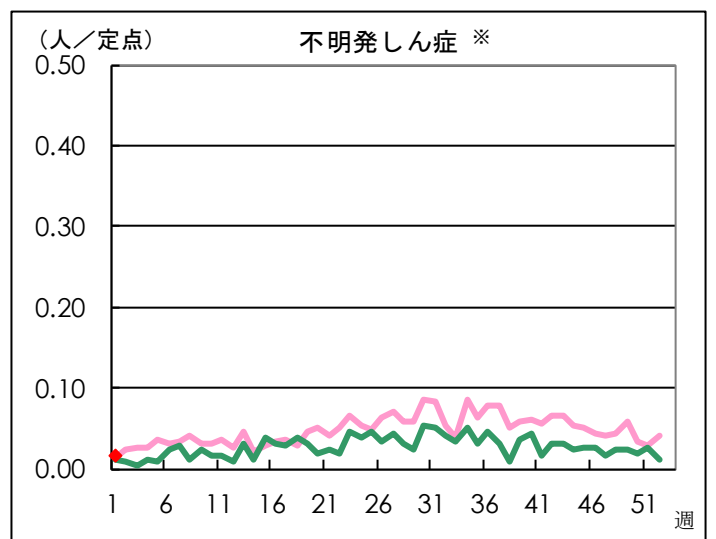
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2023年1週 現在)

◆ 小児科定点



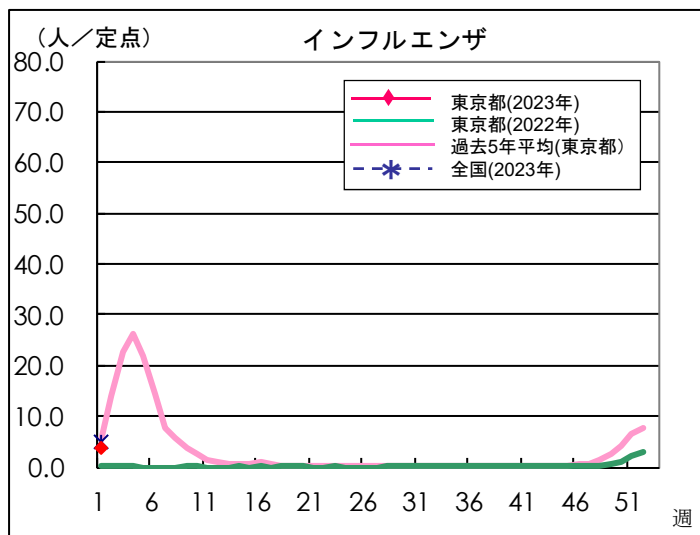


※ 東京都独自対象疾患

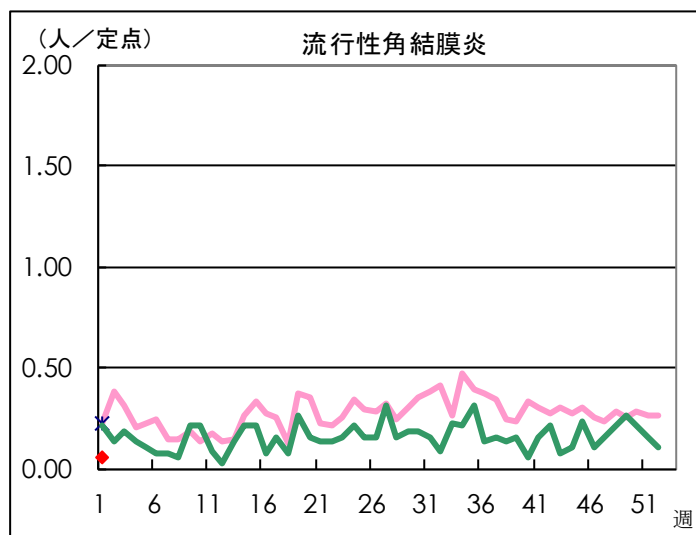
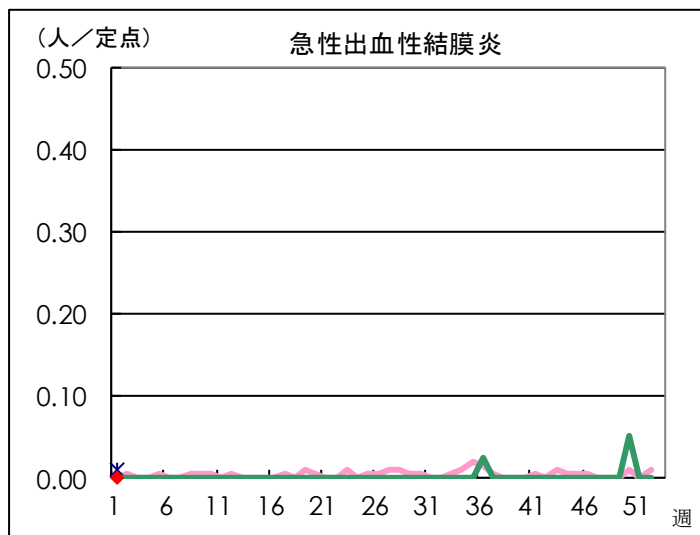


※ 東京都独自対象疾患

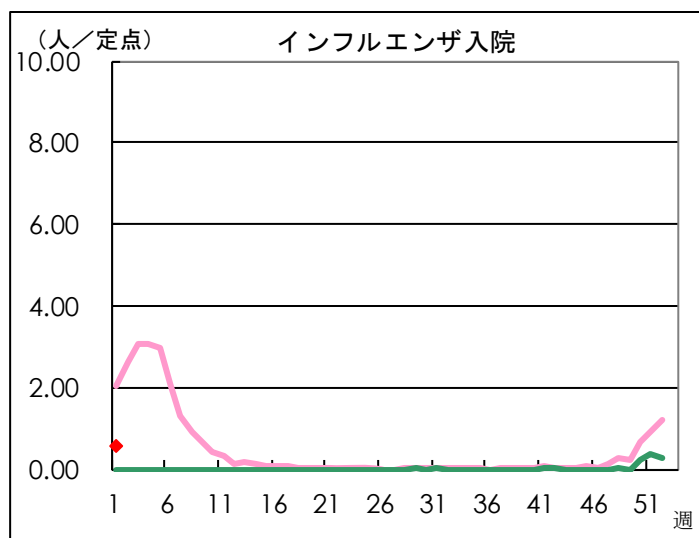
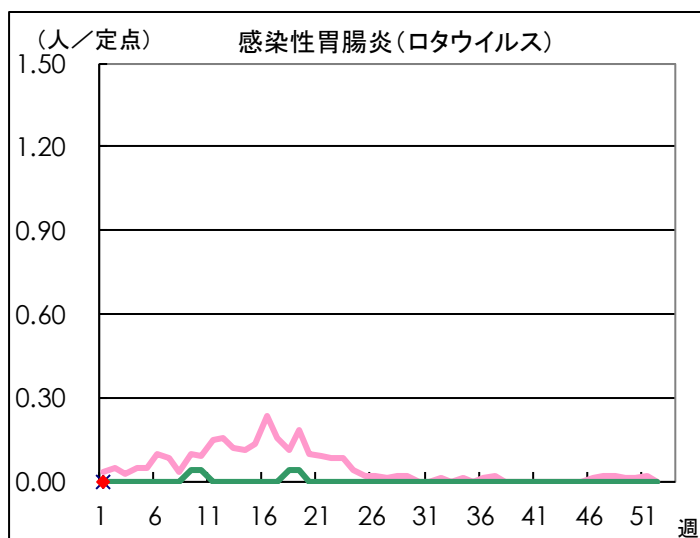
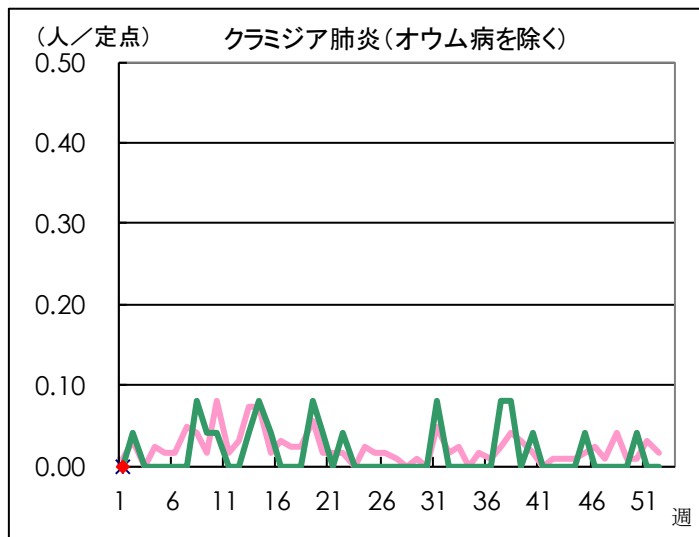
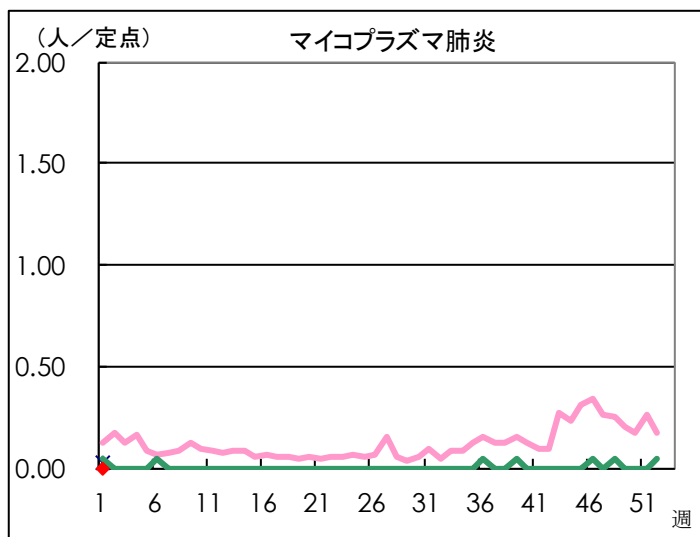
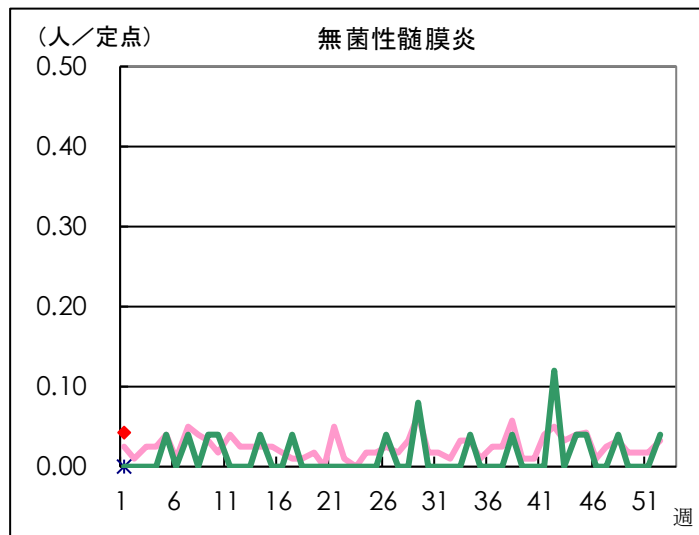
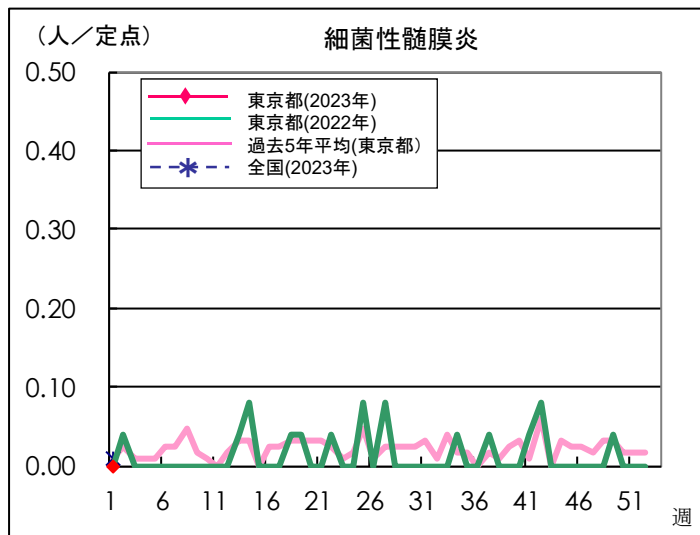
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



<感染症豆知識>

日本から風疹をなくすために

— “風疹ゼロ” プロジェクト —

“風疹ゼロ”プロジェクトとは、日本産婦人科医会が2017年に、厚生労働省をはじめ行政、関係諸団体と立ち上げた活動であり、風疹の完全抑制と先天性風疹症候群児の出生をゼロにすることを目標としたものである。因みに、2月4日を「風疹の日」とし、2月を“風疹ゼロ”月間と定めている。

先天性風疹症候群は周知のように、妊娠初期の感染により児に白内障などの眼疾患、先天性心疾患、難聴等が引き起こされるものである。我が国では、2008年の全数届出開始以降、2012～13年の流行で44人、2018～19年の流行で6人が先天性風疹症候群と診断され、2021年第3週以降の報告はない。

風疹の流行の原因として30～40代男性の抗体保有率が低いことが挙げられ、その20%が抗体不足であると報告されたことから、厚生労働省は2019年度から3年間、風疹の定期接種を受ける機会がなかった1962年4月2日～79年4月1日生まれの男性約1500万人を対象に無料クーポンを配布し、抗体検査・予防接種を行うこととした。しかし、周知不足とコロナ禍による受診控えにより順調には進まず、実施数は目標数の25%に留まっている。そのため厚生労働省は事業を2024年度まで3年間延長した。

風疹報告数は2018年の2,941人、2019年の2,298人から2020年101人、2021年12人（暫定値）と大幅に減少している。最近の調査では要注意集団の40～50代の男性の抗体保有率は90%程度。一方、妊娠出産可能年齢の女性の抗体保有率は95%以上で維持されているが、妊婦健診において低抗体価とされる割合は20～30%存在するため、引き続き警戒が必要である。

（文責 公立昭和病院 産婦人科部長 武知公博）

<感染症豆知識>

マスク着用がやはり最重要

新型コロナ対策は緩和されつつあり、海外では日本に先行して行動制限が緩められ、サッカーワールドカップのスタンドの応援を見ても、マスクをしている人はほとんどいない。しかし、新型コロナの主な感染経路は病原体の吸入であり、接触感染のリスクは低い。新型コロナ感染に対する最も重要な予防策はマスク着用であり、universal masking が提唱されてきた。

しかし、コロナ患者の減少とともにマスク不要論が台頭し、2022年2月に米国マサチューセッツ州では公立学校において、universal masking の方針が撤回された。マスク着用をやめた学校（70校）と継続した学校（2校）の間で、学生とスタッフにおけるコロナ患者の発生率を、15週間にわたって検討した結果が最近報告された。マスク着用をやめた学校では、継続した学校に比べ、1,000人あたり44.9人のコロナ患者が増え、この地区のコロナ患者の29.4%を占めたという。特にスタッフの発症者が多かった。マスク着用を継続した学校の建物は古くて状態が悪く、教室内の学生数も多いというように、状況が悪いにも関わらずコロナ患者数が少なかったことで、マスクの有用性が指摘された。

今年は南半球でインフルエンザ（以下、インフル）の流行があったため、北半球でも流行すると予想され、米国ではすでに患者が増加している。更にRSウイルス感染症も増加しているものの、いずれの国もマスク着用は緩んでいる。南半球でも北半球でも、例年のインフルシーズンよりも早めに流行が始まったと指摘されている。しかし、日本では昨年より患者数はやや多いが、早めに流行が始まっている印象はない。日本ではマスクの着用が続いているので、もしかするとインフルはそれほど流行しないのではと密かに思っている。

（文責 国立病院機構東京病院 感染症科部長 永井英明）